

令和3年度学校評価報告書

学校名（廿日市市立友和小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価	
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析	コメント	改善方策
主体的に考え、 表現する力が 身に付いている。	基礎学力が定 着している。	読書活動を充実 させる。 ICT等を活用 し、基礎学力の 定着を図る。	「読むこと」の 単元テスト正答 率が75%以上 の児童の割合	80%	89%	87%	109%	A	家庭でも新聞等の活字離 れが進んでいる現在の状 況において、学校で並行読 書を行い、読書活動を充実 させることで、授業を通し て読みを広げることがで きた。	・クロムブックを日常的 に使うことで、児童が機 器の操作に慣れ、学力向 上にもつながっている。	・「主体性」を身に付け た児童の姿を明確にす るとともに、問いを持 てる授業づくりを工夫し ていく。そのために、ICT 機器を効果的に活用す る。
			【市共通項目】 課題の解決に向 けて、自分で考 え、自分から取り 組む児童の割合	85%	88%	84%	99%	B	「主体性」を身に付けた児 童の姿を明確にし、職員で 共有すると共に、問いを持 てる授業づくりを工夫し ていく必要がある。	・自ら考えることが苦手 なようである。	
	◎かかわり合いの ある学習活動を通 して、主体的に考 え、表現する力が 身に付いている。	ICT等を活用 し、対話的な学 びを進める。	「思考・判断・ 表現」の単元テ スト正答率が7 5%以上の児童 の割合	80%	88%	88%	110%	A	クロムブックを使った学 習が定着してきたが、書 くことに抵抗感がある児 童も多いため、「書く」活 動も適宜取り入れる。 算数科においても、効果 的にICTの活用をして いく。	・与えられる情報のみ 受け取り、発信するこ とが苦手である。自己 表現する機会を増やす とよい。 ・国語科はよいが、算 数科の結果が心配であ る。	・「書く」活動を重点に して、自己表現する機会 を増やしていく。
自らの役割と責任 を自覚し、仲間と 協働しながら進ん で行動しようとする。	◎児童の自己有用 感が高まっている。 【小中共通】	授業や生活の様々 な場面において、 児童が役割と責任 を果たし、貢献し ようとする活動に 取り組む。	自己有用感が高 まっていると肯 定的に回答した 児童の割合	85%	83%	82%	96%	B	「承認ボード」や「シー クレット探偵」など、友 達のよさを見つける組織 的な取組を取り入れた。 コロナ禍による制限で、 異学年交流活動などが十 分にできなかった。	・視覚化する取組が有効 である。 ・日常生活の中で毎日で きる「あいさつ」や「言 葉づかい」に取り組むこ とが、心を育てること につながるのではない か。	・全校一斉の取組に加 え、毎日の授業を含め、 日常的にできる声掛け やよいな指導で、児 童の自己有用感を高め ることができる意識 して取り組む。
働き方改革が 進んでいる。	働き方改革を意識 し、健康で協働的 な職場作りが進ん でいる。	時間を意識した 働き方に取り組 む。	月当りの時間外 勤務が45h以 下の職員の割合	80%	73%	87%	109%	A	生徒指導上の課題や保護 者対応に迫られることが 続くと、目標達成できな いが、ふだんは19時には 退校することを意識した 働き方ができてきた。	・生徒指導が起きた場 合は、組織的に迅速に 対応し、なるべく時間 をかけない。未然防止 に労力を割くことが大 切である。 ・地域の協力が先生方 の負担減につながるの であれば、協力したい。	・業務改善の視点から、 地域の方々の協力を得 ながら、教育活動を計画 していきたい。 ・生徒指導上の問題が起 こらないよう未然防止 の取組に努めたい。

※ 計画書・中間報告書に上書きしてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。